

保感第1578号
令和4年2月1日

高齢者施設長 殿

沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部
総括情報部長（沖縄県保健医療部長）
（公 印 省 略）

新型コロナウイルス感染拡大を踏まえた施設内感染発生時への備え及び
施設内での感染者発生時における施設内療養について（依頼）

平素より、本県の医療行政にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染予防対策にご尽力いただき、心より感謝を申し上げます。

本県では、感染力の強いオミクロン株の流行により、想定を上回る規模・スピードで感染拡大が生じていることに加えて、休業となる医療スタッフの増加等により、コロナ病床のみならず一般病床の運用率もほぼ100%となるなど、医療のひっ迫状況は、限界を迎えつつあります。

また、新型コロナウイルス感染症患者の自宅療養者数は8,900人を超え、このうち入院が必要な方でも、受入先確保が極めて難しく、自宅や施設で、酸素の投与、輸液、薬の投与などを続け、回復を待つ方もおられます。

このような状況に対応するため、県は、自宅療養者や施設療養者に対する医療提供体制を確保する観点から、医師や感染管理専門家等の派遣のほか、必要な衛生資材の提供、応援職員等の派遣、通常の介護サービスの提供時では想定されないかかり増し経費の補助など、施設が入所者に対し、必要な介護サービスを継続して提供できるよう支援しているところです。

貴職におかれましても、厳しい状況にあると存じますが、新型コロナウイルス感染症を取り巻く本県の厳しい現状をご理解の上、施設内感染の発生時に備え、下記の措置を講じていただくとともに、施設内での感染者発生時に県内の病床のひっ迫により医療機関での受入れが困難となった際の施設内療養についてご協力くださるようお願いいたします。

記

1 主治医等との連携強化

現在、感染が拡大し、医療への負荷も高まっている中で、さらなる病床の確保や入院調整に取り組んでいます。それでもなお、病床がひっ迫しているため、高齢者施設において入所者が感染した場合、無症状者や軽症者はやむを得ず、施設内での入所を継続していただいています（「病床ひっ迫時における高齢者施設での施設内感染発生時の留意点等について」（令和3年1月14日付け厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策本部ほか連名事務連絡）を参照）。

また、症状が進み、医師が入院を要すると判断した場合であっても、上記の事情により、入院調整に時間を要し、やむを得ず、施設内での入院待機となる場合があります。

さらに、施設内での入所の継続に当たり、医療面での支援に努めておりますが、医師・看護師の手配も難しく、派遣調整にも時間を要する状況です。

つきましては、感染者の入所継続に備え、主治医・嘱託医や、施設の協力医療機関による、往診や、電話・オンラインによる遠隔診療等を実施いただけるように、これらの医師との連携をさらに強化して下さるようお願いいたします。

2 個人防護具の備蓄

個人防護具（サージカルマスク、長袖ガウン、ゴーグルやフェイスシールド、手袋）の十分な備蓄をご確認ください。

感染者が発生した高齢者施設において、個人防護具が不足する場合は、県 高齢者福祉介護課（直通：098-866-2214）へご相談くださるようお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症対策本部

電話：866-2006

担当：櫻井、當山

新型コロナウイルス感染症の患者が発生した 高齢者施設の入所者、ご家族及び職員の皆様へ

令和4年2月1日

沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部

平素より、高齢者福祉の向上にご尽力いただき、感謝申し上げます。

県内では、感染力の強いオミクロン株の流行により、想定を上回る規模・スピードで感染拡大が生じていることに加えて、感染や濃厚接触により休業となる医療スタッフが増加したことから、新型コロナウイルス感染患者を受け入れる医療機関においてコロナ用病床がひっ迫し、入院患者の受入れが困難な状態が続いております。

このため、通常は入院となるような方についても、自宅で療養していただくを得ない状況にあり、施設内で感染者が発生した場合も、自宅療養と同様に、施設での療養をお願いせざるを得ない状況となっております。

新型コロナウイルス感染症の治療は、解熱鎮痛剤の投与、酸素の投与、輸液等の他、必要と判断されたときは中和抗体薬や抗ウイルス薬の投与を行い、ご本人の回復を待つことが標準的な治療となります。

県では、施設内で経過をみざるを得ない状況となった場合、施設入所者を早急に医療につなげるよう、医療機関等の協力をいただき、施設内でも、新型コロナウイルス感染症患者が必要とする治療が受けられる体制づくりに取り組んでいるところです。

引き続き、関係機関と連携を図り、施設の入所者、職員の皆様に支援してまいりますので、何とぞ、ご理解とご協力をお願いいたします。